

1. ツェルトの用途

- ・ケガや道迷いや疲労や天候悪化などで予定通りに下山出来なくなったときにツェルトでビバークする。
- ・日帰りで登山。山頂は風が強く寒い。そんな時にツェルトを張って風よけ。中で食事も出来ます。

2. ツェルトの臨機応変な対処

ツェルトを広げたり巻きつけたりして、風雨を防ぎ、体温の低下を防ぐ



①ストック・ポール等を使用して設営

居住性を重視した最も基本的な設営方法です。ポールの代わりに直接木などに結び付けても設営できます。



②かぶったり、包まって使用

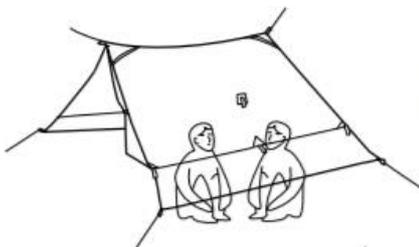
緊急時や、休憩時に雨・風を防ぐための使用方法です。多人数での使用にも向いています。

中で傘をさすと空間が広がる



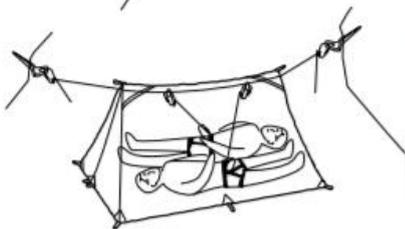
③雪洞のふたとして使用

雪洞の入り口のふたとして使用すると風雪が吹き込むことを防ぐことができます。



④タープとして使用(ツェルト2ロングのみ)

ツェルトの底を開放してタープとして使用できます。



⑤岩場でセルフビレイを取って使用

岩場で張る場合は、ファスナー上部からツェルト内部にメインロープを通してセルフビレイを取ることが可能です。(ツェルト1は両側のメッシュの下部にロープ挿入口があります)



オクトス

NEW 透湿防水ツェルトライト 13,200 円 (税込)

1~2 人用のポール・ストック・ロープを使用して設営

本体 415g

3. ツエルトの設営に必要なもの（ツエルト本体以外はすべて別に購入してください）

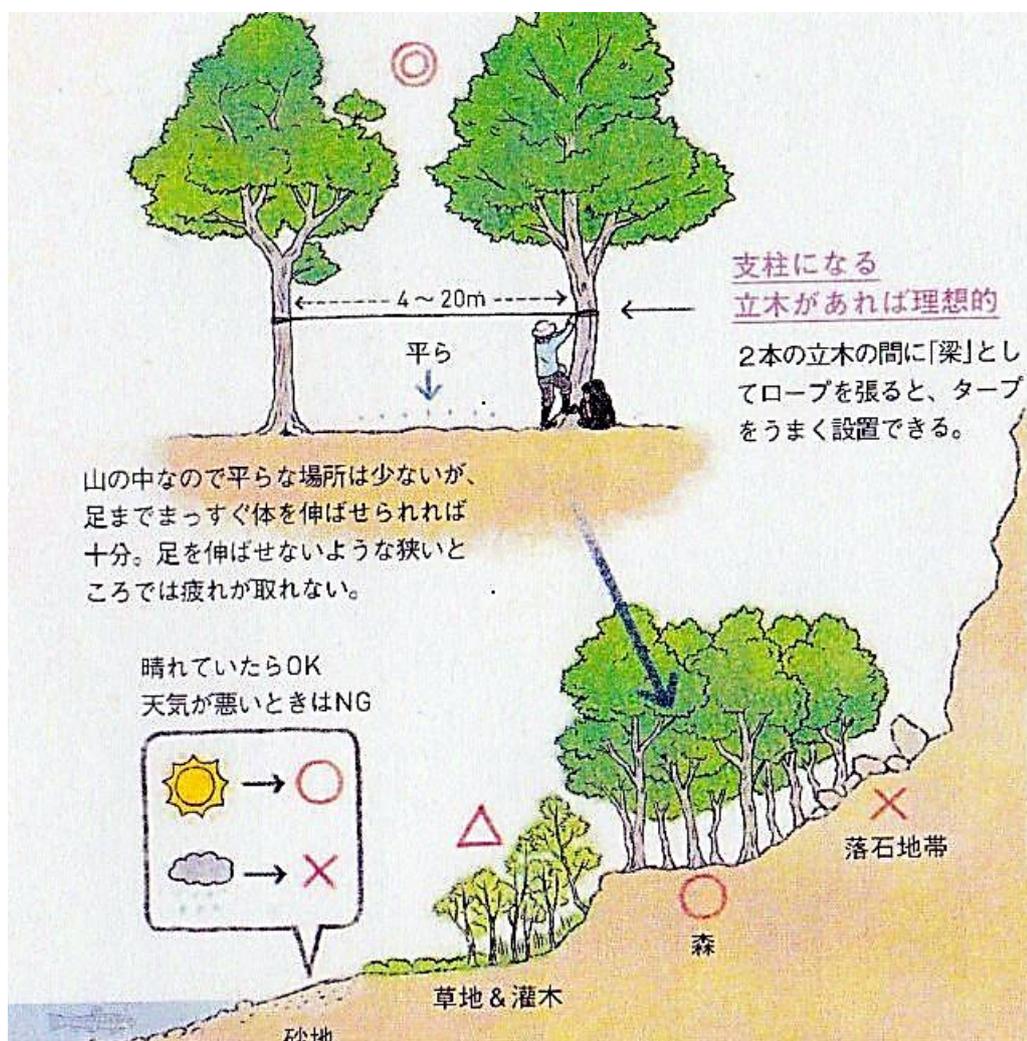
1. 2-4mmの張り綱2本。末端に自在金具（樹脂製が安全）。（2本セット。1150円（+税）OCTOS商品）
2. 居住性をアップさせたい場合はサイドリフター用の張り綱も用意
3. ペグ（最小4本、できれば8本。サイドリフター左右用含むと最大12本）
カウヒッチで結ぶと外れにくい
4. ロープに吊り下げるなら 径6mmの細引き 10m位
5. 径3mm 長さ1mの細引きで輪を作り簡易カラビナをつけた物を2本(右図)



4. 野営地の選び方

ツエルトは自立しないタイプのシェルターですので、設営後の移動はできません。設営場所を選ぶ際には充分注意してください。

△	草地 & 灌木	<ul style="list-style-type: none"> ・増水時に水に浸かる場所かどうかは植生を見れば判断できる。 ・砂地は頻繁に増水に襲われていることを示し、その次が草地になる灌木のところは冠水することもある。
○	砂地	<ul style="list-style-type: none"> ・増水に注意しなければならない。晴れていたらOK。 ・天気が悪いときはNG。夜に増水に遭うのは避けたい。
X	落石地帯	<ul style="list-style-type: none"> ・寝ているときに落石が起こると対処がむずかしく、致命的である。 ・まわりに角のある落ちたばかりの岩が散らばっているかないかで落石の有無は見分けられる
○	森	<ul style="list-style-type: none"> ・森の中は増水の心配がないし、雷や地震で被害に遭うことも少ない。風も避けられる。落石も森の中のほうが少ない。



1. ロープを使ったツエルトの設営方法

動画 4分 https://youtu.be/Km_IFzXrcag

- ・トレッキングポールを使った設営方法よりも簡単で、且つ倒れにくい。い設営が可能です。
- ・入口の前をポールが塞ぐこともないので、出入りもとてもスムーズになります
- ・クライミングロープの代わりに 4mm 程度の細引きを 10m 程度持つておくと良いでしょう。

張り綱はポールを使用しない場合でも木などからぶら下げるのに使用できるので、常時取り付けておくと便利です。
ツエルトの底面は開いているので結んでおきます。

◆入り口は風下側



木と木の間に張ったロープの真下に、ツエルトの中央部がロープの線上に来るようにペグダウン。短辺片側2箇所をペグダウンしたら、反対側をしっかりと引っ張り、きれいな長方形になるように設営します



底辺をペグダウンしたら、ツエルトの頂点部を持ち上げていきます。頂点部には、予め小さなカラビナと 2mm の細引きを輪にしたものをセットしておきましょう。



細引きをロープにプルージックで結びつけ、頂点部の直上にセットします。



頂点部のループと細引きを小さなカラビナで繋ぎます。



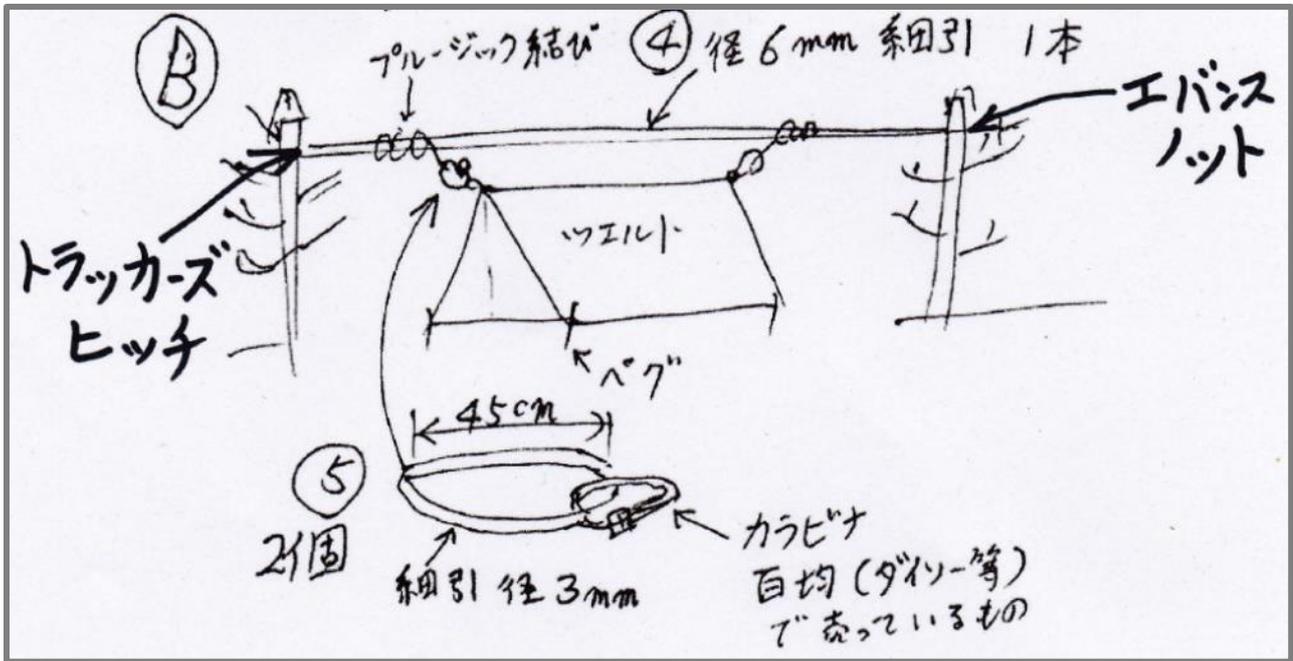
プルージックを動かし、各頂点部を開く方向に張って行きます。この時ツエルトにシワが寄らないよう、均等な配分でテンションをかけます。



長辺側底辺中央部にあるペグループと、サイドリフターを細引きで繋いでおきます。細引きをまっすぐ引っ張りツエルト内部の空間を広げたところでペグダウンします。

時間が経つと、ツエルトやロープが弛みます。就寝前にはもう一度全体にテンションをかけ直しましょう！

ツエルトをピシッと張ることで防水性が高まる(雨傘がそうであるように)



エバンスノット(二重止め結び)の結び方

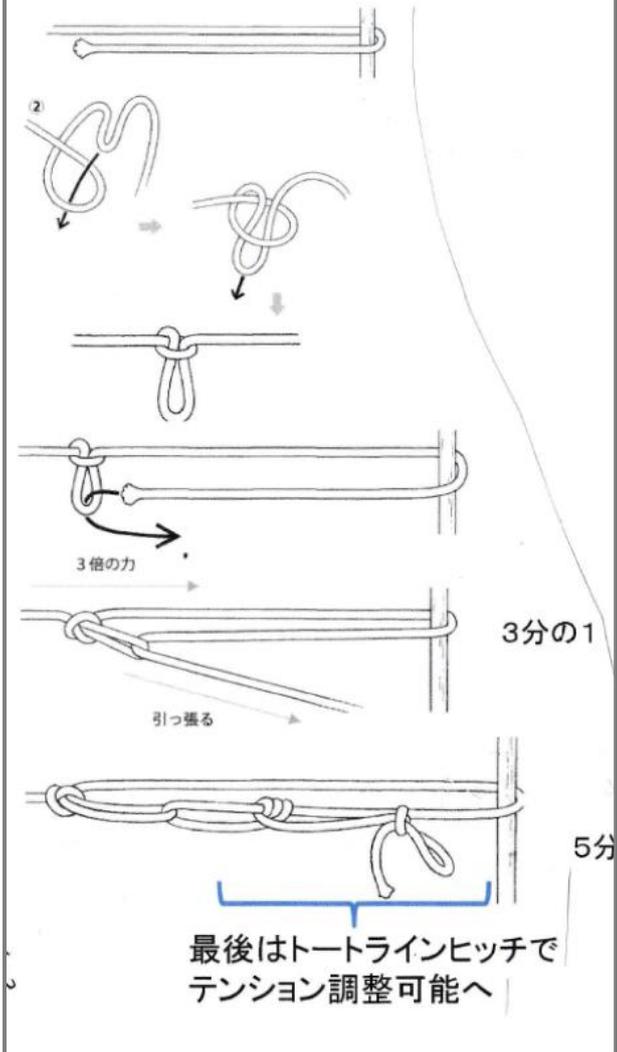
エバンスノットは結び目部分が移動し、輪をきゅっと締められるため、木にロープを固定する際も移動しないので便利。ペグが打てない場所でペグ代わりに石に巻き付けることもできます

1. ロープの末端を、石や木に巻きつけ、末端を手前に伸びるロープの裏側に通します。
2. 中心に向かって3周巻きつけます。この時、左手の親指に巻くと簡単です(左利きの人は右親指)
3. 末端を3周巻いた輪の中に通す。(親指を抜いてできたループに通す)
4. 末端のロープを引き、結び目を締めます。
5. 手前に伸びるロープを引くことで、結び目が中心に向かって移動します。固定する対象物にキュッと締め付ければ完成。結び目を手前に引けばゆるまります。

◆何にも巻かずに同じ工程で大きなループを作ることもできます。こうすれば石に巻き付けるのも簡単



トラッカーズヒッチ



プルージック結び

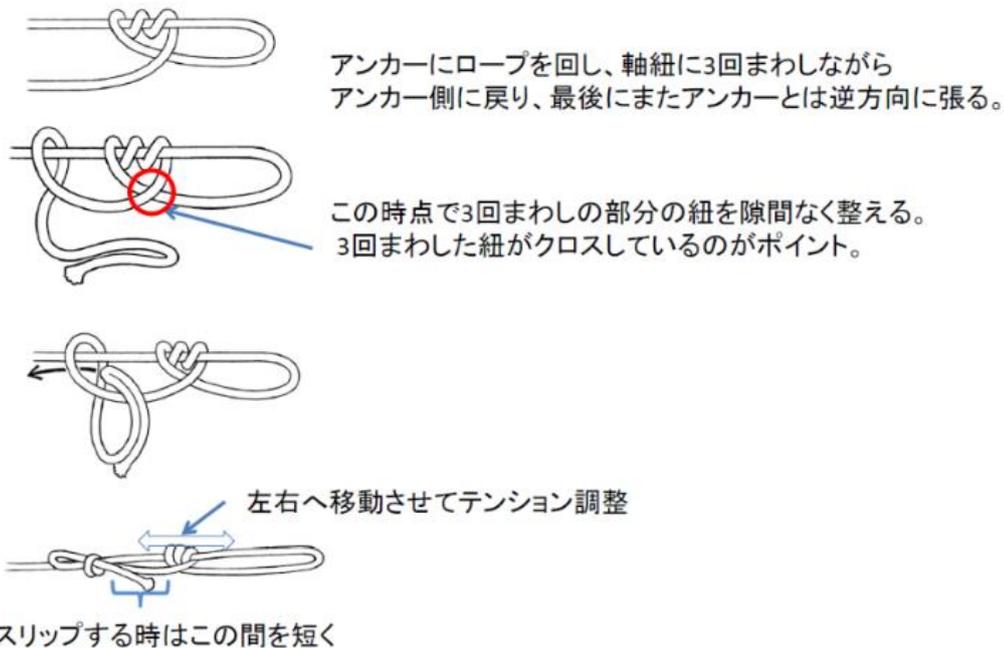
カラビナと細引きをセットしたものをロープにプルージック結びで引っ掛ける

□ブリッジ・プルージック



<https://www.youtube.com/watch?v=1AZJWM8S7og&t=265s>

トートラインヒッチ I : 緊急露営ツェルト設営技術



2. トレッキングポールを使ってツエルトを設営する

<https://www.oxtos.jp/shopdetail/000000002976/> oxtos(オクトス)テントの設営 動画 4分 26秒



1. 入り口のファスナーを閉めます



2. 四隅をペグで固定します。



3. 各コーナーから 1m にペグを打ち込ん(もしくは石)で、あらかじめ張り綱をセットしておく



4. トレッキングポールを立てる (125cm の長さがよい)。雪面ではグリップを上にする、ストックが沈みません。硬い地面であれば、ストックを逆さまにして石突を下から差し入れても利用できます。



5. トレッキングポールから 1m の処にある張り綱に掛けてテンションをかける



6. 反対側も立てる



あれば 横の張り綱を張る。サイドリフターの付け根がツエルト底面のサイドラインを超えない程度に軽く引っ張るくらいで十分



寝る前に張り綱を張り直す



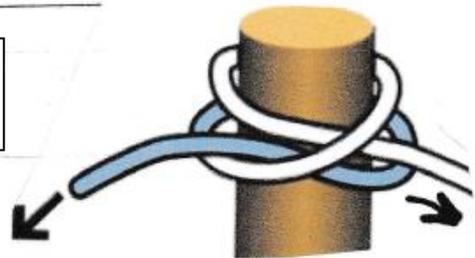
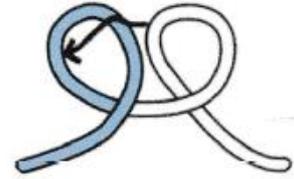
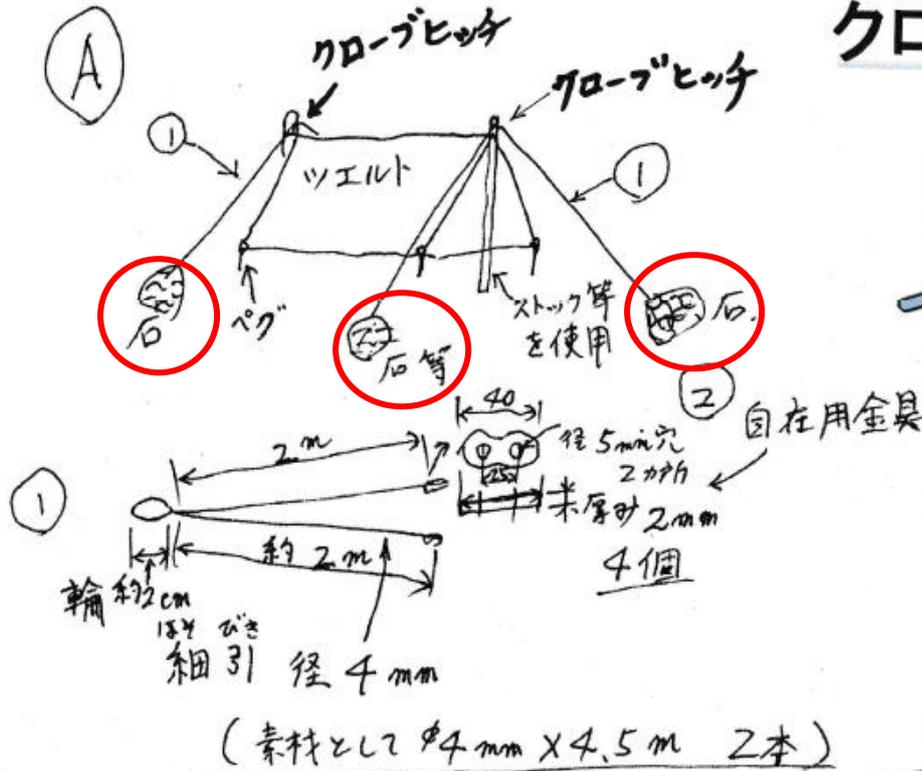
縦 8 つにたたむ。そして折る

◆入り口は風下側

◆入口側はポールとの間を50cm程度離すと出入りが便利。できれば片側を木に固定すると入り口が広く取れる。

ツエルト使用时 ありと便利なものです

クローブヒッチ



最小4本は張り綱を石などに結ぶ場合。8本から12本。

◆石にはエバンスノットで結ぶ

クローブヒッチの図は「アウトドアですぐ役立つロープワーク」より出典

ペグはカウヒッチで結ぶと外れにくい



ループの下から親指と人差し指ですくい上げます。



ループの根元をつまんで引っ張り出します。
<https://kamiyama-online.com/guyline-stopper-to-both-side/>



カウヒッチをペグに掛けます
 図は神山オンラインから引用